



# フォーラムたより

2016  
4月号  
No. 47

## 祈りの中で歩む復興への道

### 金光教 東日本大震災五年祭

3月6日(日)、福島テルサ(福島市)を会場に金光教東日本大震災五年祭が仕えられ、被災地域や東北教区をはじめ、首都圏からも多数の信奉者が参拝した。

開会では、金光榮雄実行委員長(福島教会長)が、「ご神体である天地がこの地では汚染されている。その中でも神様は助かって欲しいと願って下さっている。慈愛深き尊い神様をしつかりと頂き、東北復興・福島復興を願い、おかげを蒙っていききたい」とあいさつ。

第1部では、志田篤さん(郡山南仮設住宅代表世話人・NPO法人代表)が「被災村民の生活再建は！」と題して、「今、被災者が一番嘆いているのは、地域のコミュニティの喪失と友人を失うということ。そして、平成29年3月には、仮設・借上げアパートの補助が打ち切られる問題がある。これ以上家族に迷惑をかけたくないという理由から、高齢者の自殺者もでてくる。世論を盛り上げ、被災者が生活再建が果たせるようにご協力をお願いしたい」



と、現状を訴え、佐々木修さん(福島教会信徒)が「3.11を生きる」と題して、「深生き」「二つ悪いことさでないものよ」をキーワードに、「人間はいつか死とい

であつたが、それに難負けせず、真摯に向き合って取り組めば、心の筋肉がつき、自分が死ぬときに大きな課題と向き合うことができると述べて。

第2部の祭典では、祭主の橋長孝三郎先生(岩代郡山教会長)が祭詞の中で、大震災によって亡くなられたおよそ二万柱の御霊の道立て、被災した人々、地域の復興再生を願うと共に、大震災の教訓を生かし、「わが力で何事もやり」の生き方を改め、「人が人を助けるのが人間」との思いに立って、復興再生のお役に立たせてください、と祈りを込めた。

第3部の講話では、岡成敏正教務総長が「東日本大震災から五年、復興へ向けての祈り—生きられた信心の歷程から—」との講題で、慰霊復興祈願祭時の佐藤前教務総長の講話をもとに、天地のこと、神様と人間との関係に関わる内容を押さえ直した上で、被爆のどん底から立ち上がった広島教会の佐藤盛雄先生、関東大震災から立ち上がった銀座教会の湯川誠一先生の信心の歩みを紹介した。

う大きな試験が待っている。生き残っている私たちはそのトレーニングをさせてもらい、そして心の筋肉をつけさせて頂く機会を与えてもらった。つらく悲しい出来事

第4部では東光合唱団が「真心の道を迷わず失わず」「花は咲く」「祈りの詩」「空より高く」など、7曲を披露し、幕を閉じた。

## 関東・東北豪雨災害 派遣レポート

昨年9月に発生した関東・東北豪雨災害に対して、金光教首都圏災害ボランティア支援機構では、9月末から12月にかけて9回、下は中学生から上は70歳近い人まで総数51名のボランティアを、茨城県常総市に派遣しました。

今回のボランティア派遣は主に常総市災害ボランティアセンターを通して実施し、水に浸かった家具や家財道具の荷物運び、床板ががし、床下の泥出し、家屋や家具の洗浄、庭の掃除などを行いました。一人ひとりの力は僅かですが、作業を通して被災された方々とふれ合うことができ、難儀を抱えている人の心に寄り添う貴重な体験が出来たように思います。



経った今年2月中旬、被災地の状況を確認するため約2ヶ月ぶりに常総市を訪問して来ました。被災当時至る所に見られた泥をかぶったままの状態の田畑や、道ばたに並べられた廃棄処分を待つ家具や家財道具、土嚢袋などはすっかり片付けられ、街のほとんどの地域が表向き通常の生活に戻っているように見えました。また、今回最も被害が大きく、テレビでも繰り返し報道された鬼怒川の決壊地点の周辺も、壊れた家屋はすっかり片付けられ、終日工事業者が入って復旧が急ピッチで進められていました。また、現地ではボランティアの依頼もほとんどなくなっているとのこと。

今回の災害に対する復旧・復興は順調に進んでいるように見えますが、震災から5年が過ぎた東日本大震災の被災地でも言われていることですが、目に見える所では復興が進んでいるように見えても、被災された人それぞれで状況が異なり、未だ家に帰ることが出来ない人もいたり、経済的に困窮している人も増えて、一人ひとりの心の傷は想像以上に深いものと思われま

それぞれに被災地への関心を失うことなく、引き続き出来る範囲で手を差し伸べ、心を寄せさせていってほしいと思います。(支援機構事務局・宮田和弘)

## 首都圏布教御礼祈願祭

### 並びに東日本大震災復興祈願祭

日時: 6月11日(土) 15:20~

会場: ご本部やつなみホール(南ホール)

講話: 安西宏太先生(千葉県教会連合会長)

祭典後 金光様お退けお見送り

祝宴: 神露酒造 17:00~

### 壮年教師会会長代理・鈴木宏政

壮年教師会発足後、平成17年からは同会が中心となって、ご霊地での祈願祭、遙拝式、祭典のインターネット中継などの御用に取り組みさせて頂きました。

平成30年の首都圏布教130年をお迎えするに当たり、首都圏信奉者が勢を揃えて、ご霊地で首都圏布教御礼祈願祭をお仕えしたいとの願いから、遙拝式は10年を区切りに終えさせて頂きました。そして、新たな試みとして、祭典後に金光様のお退けお見送り、神露での祝宴を行います。

この祭典は、首都圏にかけられた思し召しを頂き直し、布教功労者の御霊神様に慰霊を捧げ、新任教師を祝い、40年褒賞教師に感謝の気持ちを表す場であり、過去から現在、そして未来への祭典であると考えています。

ある先生は、「この祭典は首都圏大祭だと思う」。また、ある先生は「俺は、お道が好きだ」と御用にあたる。私は「おらが町の祈願祭」と押さえて頂いています。ヨイトマケの唄には、「父ちゃんのためならエンヤコラ 母ちゃんのためならエンヤコラ」とあります。先ずは、最初に「金光様のためにエンヤコラ あずまの道のためにエンヤコラ」と綱を引かせて頂きたいと思います。





### 平成28年度 各連合会の活動と願い

#### 茨城・栃木教会連合会



清水日出男会長

当連合会では、「連合会内各教会が協力し、信心の興隆を求め、教会布教の発展展開を目指す」を基本方針として、(1)「神人あいよかけよの生活運動」の実践(2)教師・信徒の研修、を活動の柱として取り組んでまいります。

なかでも、平成30年に迎える首都圏布教130年に向けての都連の取り組みなどを参考に、当連合会として地域への布教展開を願って何が出来るか、教師・信徒が連帯して研修の場を持ちたいと願っています。

教師部会では、3月9日(水)に毛塚紀博師発題のもとに教師研修を行い、8月29日(月)～30日、群馬・埼玉教会連合会と合同研修会(事務局・茨城・栃木教会連合会)を、赤羽教会長・藤原務正師を講師に迎えて開催いたします。

そして、6月25日(土)には、「運動の推進を願って」をテーマに、教師・信徒の発題をもとに研修会を開催いたします。(教師の発題：水戸教会長・岡本真行師、信徒の発題は未定)

#### 千葉県教会連合会



安西宏太会長

当連合会としては、今年度は、「お礼と喜びの生活を実践する」とのテーマのもとに、頭で考えるのではなく、より具体的な取り組みを聞かせていただき、実践することに重きを置いた活動をしていきたいと考えています。

そのために、6月4日(土)～5日(日)には研修会、7月16日(土)には女性の集い、9月4日(日)には銚子教会を会場に共励会で研修をしていきます。そして、3月の春季霊祭、9月の秋季

霊祭時を中心に、定期教話を実施します。

また、2月20日(土)に開催いたしました青年の集いでは、青年信奉者育成祈願祭を通して、御用について理解を深めさせていただきました。

8月5日(金)～6日(土)の少年少女の集いでは、キャンプを通じて、神様の御徳を実感してもらえるように取り組んでまいりたいと思っております。

このほかには、4月7日～8日、10月6日～7日に本部大祭に参拝し、御霊地の御徳をいただき信心の研鑽をしていきます。

今年一年は、お礼と喜びの信心実践が形になるよう努めてゆき、おかけをいただきたいと願っています。

#### 群馬・埼玉教会連合会



松本尚会長

当連合会では、例年の活動方針に「首都圏布教130年に向けて、首都圏布教及び教会活動の活性化に努める」との文言を加え、再来年の首都圏布教130年を視野に入れての活動を行ってまいります。

具体的には、第23回金光プラザ・イン群にて「神人あいよかけよの生活運動」の理解と実践に努め、第16回レクリエーションプ

ラザにおいては、春日部市の庄和総合公園にて、防災施設見学やバーベキューによって青少年育成や信奉者の交流を行う予定です。教師研修会は茨城連合会と合同で行ない、教会布教の取り組みについて求めてまいります。

また信徒部では、他宗教の勉強や教勢進展の方途を求めるとともに、青少年育成を目的とした愛児苑(熊谷市)においてのタケノコ掘り、美化活動(草刈り、庭木剪定、農作業)、収穫感謝の芋煮会などを、青少年が参加しやすい日程にて行う予定です。

今年度は特に、青少年育成と布教実践、信心継承に力を入れていきたいと願っています。

#### 神奈川・山梨教会連合会



福田光一会長

当連合会では、「教師信徒一体となつて、金光大神の信心を求め現す」を基本方針とし、活動方針として、(1)「神人あいよかけよの生活運動」を進める(2)布教活動を推進する(3)人の助かる人材の育成を図る、を掲げ連合会活動を進めます。

布教研修部では、運動と布教のために2回の共励会と輔教懇談会を開催し、育成部では、3月のイチゴ狩り、7月の地引き綱、10月ボーリングの3つの集い「みんなの集い」を通して交流、親睦と人



和泉正一会長

今年、例年にならった活動に加えて、次のような活動を計画しています。

まずは、昨年末に発行いたしました『首都圏布教130年プロジェクト会議報告書』を題材にして、各分会において「金光教の良

いところを話し合う」、「教会布教に資する教会連合会を考える」、「首都圏の信奉者が連帯して取り組む信心実践活動を展望する」という三つのテーマについて話し

合っていたいただきたいと考えています。これは、平成30(2018)年に首都圏布教130年を迎える

にあたり、首都圏におけるこれからの私たちの活動がどうあったら良いか、皆で考えるために企画しているものです。

そのほか東京センターと共催で、小澤浩氏(宗教史学者・元富山大学学長)の「人が助かること

さえできれば：人が助からねば世に何を、6月4日に金光教館で開催いたします。信奉者とその周辺の皆様に、ふるってご参加いただければ有り難いことと思っております。

また秋には、LGBT(Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender)について学ぶ教師研修会も予定しています。

#### 宗教史学者 小澤浩氏講演会

### 人が助かることさえできれば

一人が助からねば世も助からぬ

日時：6月4日(土) 開場：午後1時 開演：午後1時30分

会場：金光教館(金光教東京教会/秋葉原)

小澤浩氏の講演(チラシ参照)があります。金光教を知らぬ方にも是非お声掛けの上、ご一緒に参加ください。一般に、利己主義とか、自分中心という聞こえが悪いものですが、その反対の利他主義・愛他主義という、これまたむずかしく感じる向きもあるかと思えます。そこを金光大神様は、「わがことは次にし、人の助かることを先にお願ひしていくがよい。そうすると、自分のことは神様がよいようにしてくださる」とみ教えくださっています。すなわち、信心するわが身は、尽きぬ天地の大恩恵に守られていくので、人に対しては、報いを期待することなく奉仕することが出来るのです。それだけに、「人が助かることさえできれば結構である」という大使命に奉仕することができなければ、その信心は、己を利用するのみ「利己」に終わってしまうのではないのでしょうか。このたびの講演者小澤浩氏(宗教史学者・元富山大学学長)は、金光教祖の「人助け精神」の神髄を高く評価しておられます。どうぞご期待ください。